

平成29年度 学校自己評価システムシート(県立杉戸高等学校)

目指す学校像	部活動の盛んな進学校として生徒の自己肯定感を高め、社会に貢献する人材を育成する学校。
--------	--

重点目標	1 学力向上、授業改善に向け、効果的な取組を推進する。 2 生徒の規範意識を向上させ、杉高生としてのプライドを身に付けさせる取組を推進する。 3 中学校・地域関係者の本校に関する理解を深める取組を推進する。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※ 学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7	名
	事務局(教職員)	8	名
	生徒	3	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価						
年度目標				年度評価(2月1日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	生徒の学習態度は良好であるが、自発的な意欲が不十分である。授業アンケート結果では、積極的に質問する生徒は20%であった。55分授業の実施に伴い、生徒の自発的授業参加を促す、指導内容、指導方法の工夫改善が必要である。	1 アクティブラーニング等の授業方法を研究し、生徒が主体的に参加する授業を展開する。	1 他校の公開授業の参観や工夫事例を研究し、生徒が主体的に授業に参加する授業研究を行い、教科ごとの協議を行う。	1 授業研究の結果、生徒の主体的学習活動が向上し、授業アンケートでは質問、ノートについて肯定的自己評価をそれぞれ50%、70%とする。	1 概ね達成できた。授業方法を工夫し、生徒が主体的に参加する授業が行われた。授業アンケートの質問、ノートについて肯定的自己評価は22%、64%であった。	B
		2 生徒、保護者の進路意識を啓発し、進学実績を高める。	2-① 1年次より国公立大学希望者を対象としたガイダンスや生徒及び保護者の進路意識を高める講演会を実施する。 2-② 2020年度実施の新テストに向けて対策を検討する。	2-① 国公立型センター試験出願者が30名を超え、合格者20名以上、早慶上理及びGMARCHにチャレンジする生徒が70名を超え、合格者50名以上とする。 2-② 学校説明会等で中学3年生に本校の新テストに向けての対策を説明する。	2 概ね達成できた。 2-① 説明会や講演会等実施し、進路意識を高めた。埼玉県立大学に6名の合格者を出した。5教科型センター受験者は30名である。 2-② 新テストの英語の対応としてGTECを導入し、指導に当たっている。	
2	遅刻延件数は年々減少し、平成28年度の遅刻件数は延600件程度であった。朝学習の習慣を全校に根付かせ学習する姿勢を身に付けさせる。	1 学校生活のあらゆる場面で、杉高プライドを身に付けた自信と誇りを持った行動をとらせる。	1-① 引き続き朝学習の習慣付けを41期生でも実施することで学力向上と同時に遅刻者を減少させる。 1-② 部活動等での活躍をホームページ等でも称賛し、誇りを持たせる。	1-① 全校の年間遅刻延件数を600件以下とする。 1-② 杉高プライドが称賛される記事を20回以上ホームページに掲載する。	1 ほぼ達成できた。遅刻者数も少なく、近隣からの苦情もなかった。朝学習も定着している。 1-① 2月1日現在372件である。 1-② 2月6日現在19回掲載している。	A
		2 学校外活動においても積極的に参加する生徒を育てる。	2 学校外活動において自己をアピールできる機会を提供し、生徒に積極的に働きかける。	2 海外派遣事業、進路セミナーなど、県教委の主催する事業やボランティア活動等に20人以上の生徒がチャレンジし、90%以上が参加満足度に肯定的自己評価をする。	2 概ね達成できた。ボランティア清掃は2回実施した。地域行事に部活動として空手道部、ダンス部、野球部、吹奏楽部が参加した。	
3	平成28年度の学校説明会事前申込者合計は1065件(約2000人)だった。さらに多くの中学生が杉高に関心を持ってもらえるよう、また、中学生数が減少する中、入試での倍率が1.1倍を下回らないようにする必要がある。ホームページで部活動のページを全顧問が適宜更新できるようにするのが課題である。	1 ホームページの部活動情報更新を組織的に行う。	1 全ての部活動顧問がホームページ更新にあたる。	1 全ての部活動の更新を年平均2回以上としアピールすることで本校の受検希望者を増加させる。	1 概ね達成できた。殆どの部活動で2回以上の更新ができた。	B
		2 地元中学校へ杉高の状況が十分に伝えられる。	2-① 広報部から『杉高だより』を発行し、杉高生の生活をビジュアル的に伝え、学校説明会の参加者数を増加させる。 2-② 中学校訪問や各説明会等を通して本校の活動を報告し、受検生に本校の教育内容を十分理解してもらう。	2-① 『杉高だより』を5回以上発行し、学校説明会への参加人数を生徒、保護者を合わせて2000人以上とする。 2-② 入試倍率を1.15~1.2倍で安定させる。さらに、入学後に進路変更する生徒をゼロにする。	2 ほぼ達成できた。全教員で分担して各中学校を訪問し、本校をアピールした。 2-① 『杉高だより』は5回発行できた。学校見学会と各説明会の参加者人数は生徒、保護者を合わせて約2800人であった。 2-② 学校説明会では内容の工夫を行い、生徒を参加させる形態を取り入れている。	

学校関係者評価	
実施日(平成30年2月13日)	
学校関係者からの意見・要望・評価	
<p>杉戸高校の生徒は授業をしっかりと聞いている。今後は、新しい学習指導要領にもあるように、生徒の主体的・対話的で深い学びの視点から積極的に、授業に取り組んでほしい。55分授業の利点を生かして、1コマの授業内容を充実させてほしい。生徒の進路実現のために、新しい大学入試に向けて、いろいろな取組を行うことはよいことである。</p>	
<p>地域との交流、たとえば地元の小・中学生に杉戸高校生が勉強を教えるなどの機会があるとよい。以前やっていたこともあるので、ぜひ復活させてほしい。街中で、杉戸高校の生徒の善い行いを見かけることがある。善い行いはどんどんほめるべきである。遅刻件数を減らすという課題はもう達成した、という事でよいのではないか。生徒会が中心になって、生徒主体の活動を増やすとよい。</p>	
<p>ホームページが頻繁に更新されるようになったので見るのが楽しみである。学校の良いところをもっとアピールして、生徒募集につなげてほしい。学校見学会に部活動の生徒が参加する試みはよかった。地域の学校として期待している。</p>	